

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付け上のお願

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。
- かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品は下荷重方式のため、床面で重量を受けますので、本体重量に耐える床面仕上げにしてください。（表-1）
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材（含水率 20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。

（表-1）

間口	本体重量
3尺間口	20kg
4.5尺間口	40kg
6尺間口	50kg

■本体保管上のお願

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
- 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

※枠はノックダウン、本体は完成品。

本 体	3方枠	4方枠	3方枠用下枠
	<ul style="list-style-type: none"> ●上枠 ●上レール ●縦枠（2本） 	<ul style="list-style-type: none"> ●上枠 ●上レール ●縦枠（2本） ●下レール ●つばなし薄下枠 	<ul style="list-style-type: none"> ●つば材 ●下レール ●つば付き薄下枠 または ●埋込下枠
			ケーシングセット（ケーシングタイプのみ）

■部品セット
〔本体用〕

部品名称 呼称	把手セット (ねじ付)	軸ピボット(上)	軸ピボット(下)	ガイドピボット(上)・(下)	調整スパナ
全機種	1	1	1	2	1

〔3方枠・4方枠用〕

部品名称 呼称		皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)		皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装 (縦枠躯体取付け用)	皿タッピンねじ φ4×50 (上枠躯体取付け用)	下部ピボット受け	穴埋めシールシート
		3方枠	4方枠				
ノン ケーシング タイプ	W07・08M	4	8	8	2	1	1
	W12・13M	4	8	8	4	2	1
	W16・18M	4	8	8	5	2	1
ケーシング タイプ	W07・08M	4	8	8	2	1	—
	W12・13M	4	8	8	4	2	—
	W16・18M	4	8	8	5	2	—

〔下枠用〕

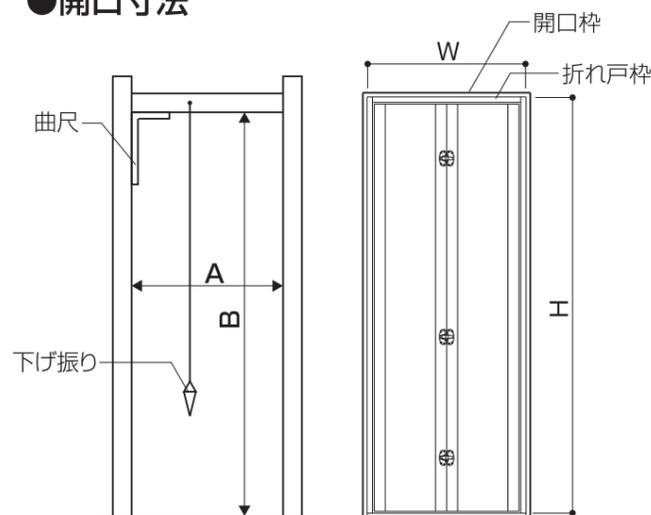
部品名称 呼称	トラスタッピンねじ φ4×50 (つば付き薄下枠 組立て用)	皿木ねじφ3.5×20 (下枠取付け用)	下枠ピース
つば付き薄下枠W07~08M	4	2	—
つば付き薄下枠W12~18M	4	3	—
埋込下枠W07~18M	—	3	2

■開口部の確認

- ※開口部の水平・垂直を確認してください。
- ※開口部寸法が右記寸法になっていることを確認してください。

開口寸法A	製品寸法W+10mm
開口寸法B	製品寸法H+床厚+5mm

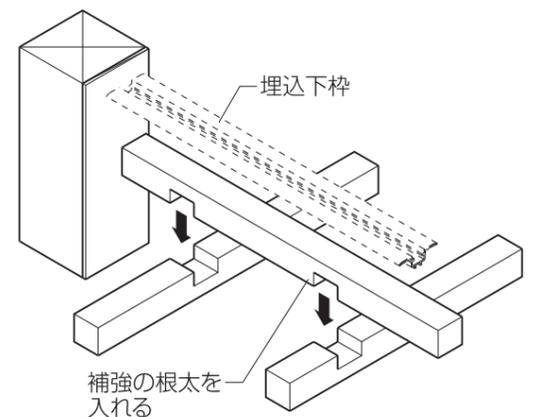
●開口寸法



■床の張り方

1 下枠下地の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。

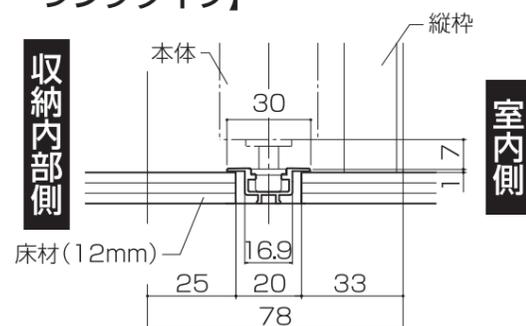


2 床張り位置

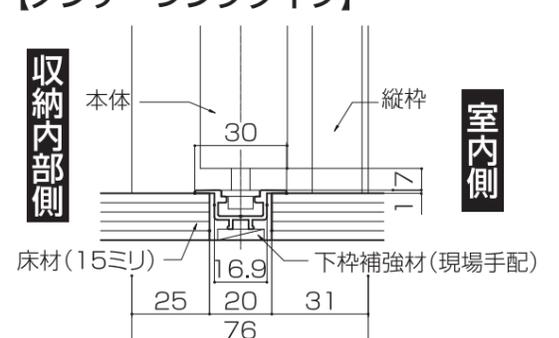
〔床先張り(枠後付け)の場合〕

- 床材間に埋込下枠が入りますので、室内側縦木口からa寸法内側の位置に20mmあけて、床材を張ってください。
- ※床材の開口寸法(20mm)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

【ケーシングタイプ】

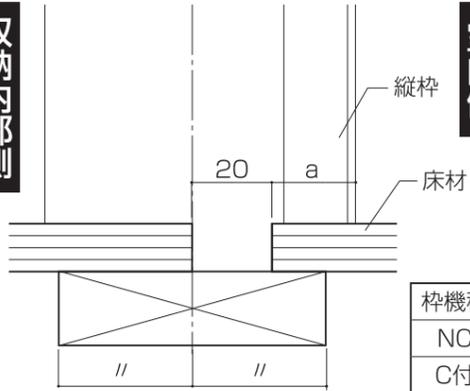


【ノンケーシングタイプ】



収納内部側

室内側

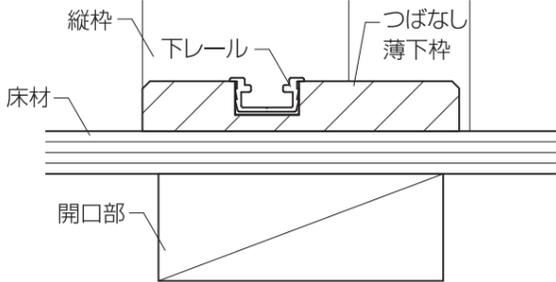


枠機種	a寸法
NC	31
C付	33

【床載せ納まりの場合】

【つばなし薄下枠を使用する場合(床載せ納まり)】

- 床材を張ってから枠を取付けてください。
- ※床材をあけて張る必要はありません。



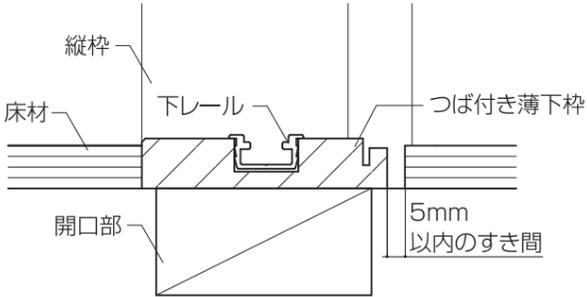
床張り位置(床の張込み)

【つば付き薄下枠を使用する場合】

- 枠取付け後、下図のように床材を張ってください。

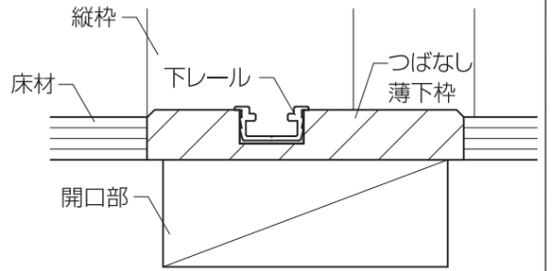
お願い

※床材と薄下枠のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。



【つばなし薄下枠を使用する場合】

- 枠取付け後、縦枠・つばなし薄下枠にそって床材を張ってください。

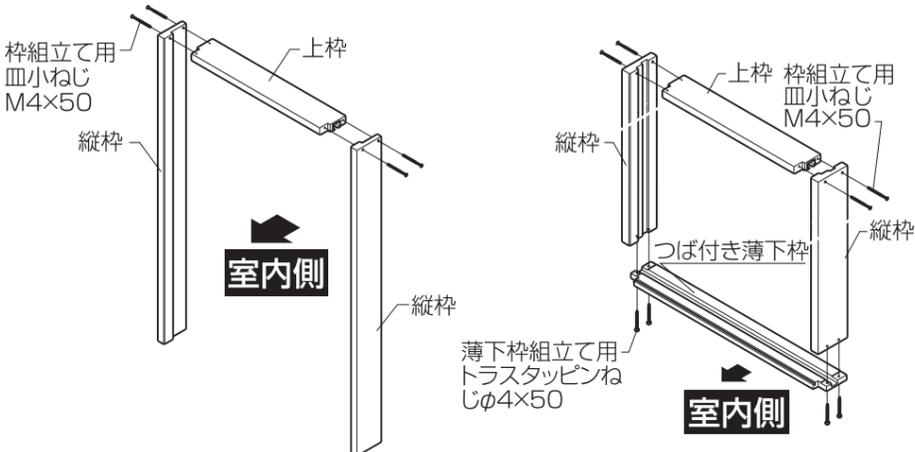


取付け順序

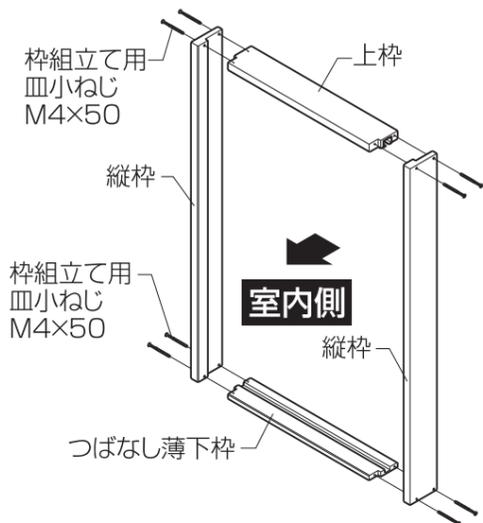
1 枠の組立て

- 図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。

【埋込下枠を使用する場合】 【つば付き薄下枠を使用する場合】

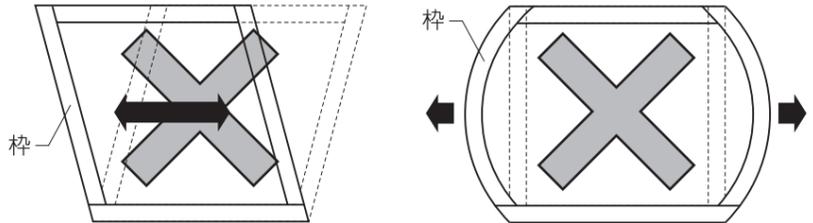


【つばなし薄下枠を使用する場合】



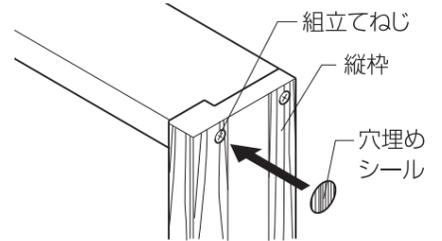
枠組立て上のおお願い

- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。



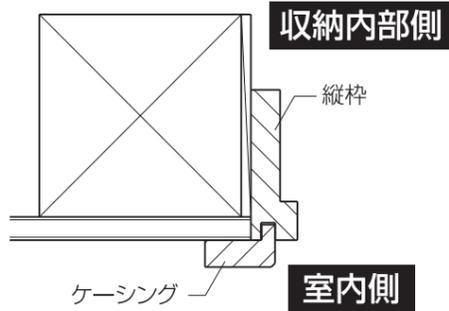
【穴埋めシールの使用方法】

ノンケーシング枠において、縦枠が、仕上げボード面よりも11mm以上出る場合に使用してください。右図のように、穴埋めシールの木目方向を合わせて、組立てねじ頭部に貼ってください。



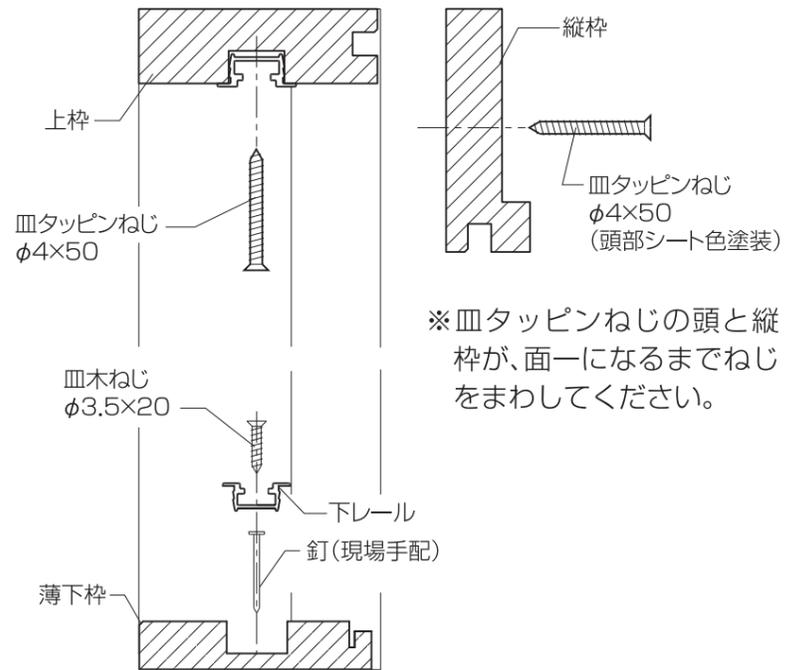
2 枠の取付け

- 組立てた枠を開口部に入れます。ここでケーシングタイプの場合は、縦枠にケーシングを差込み、枠の固定位置を確認します。
- ※ケーシングの足は設定が限られており、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。
- ※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。



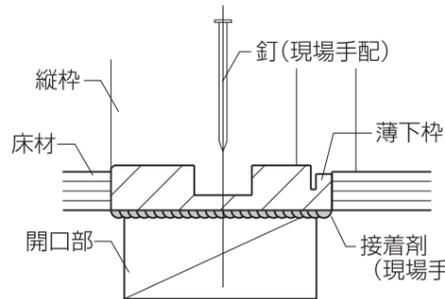
【薄下枠を使用する場合】(つば付き・つばなし薄下枠共通)

- 上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。その際、レールも合わせて固定します。



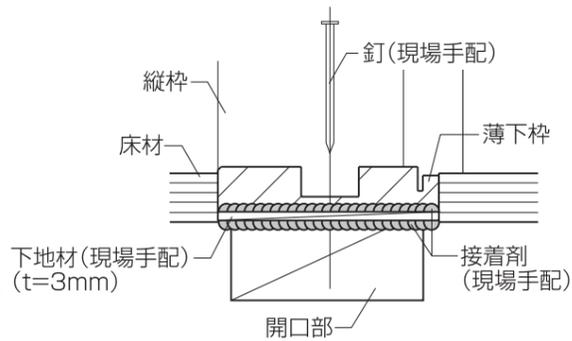
●床材厚さ12mm

- ※必ず薄下枠に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



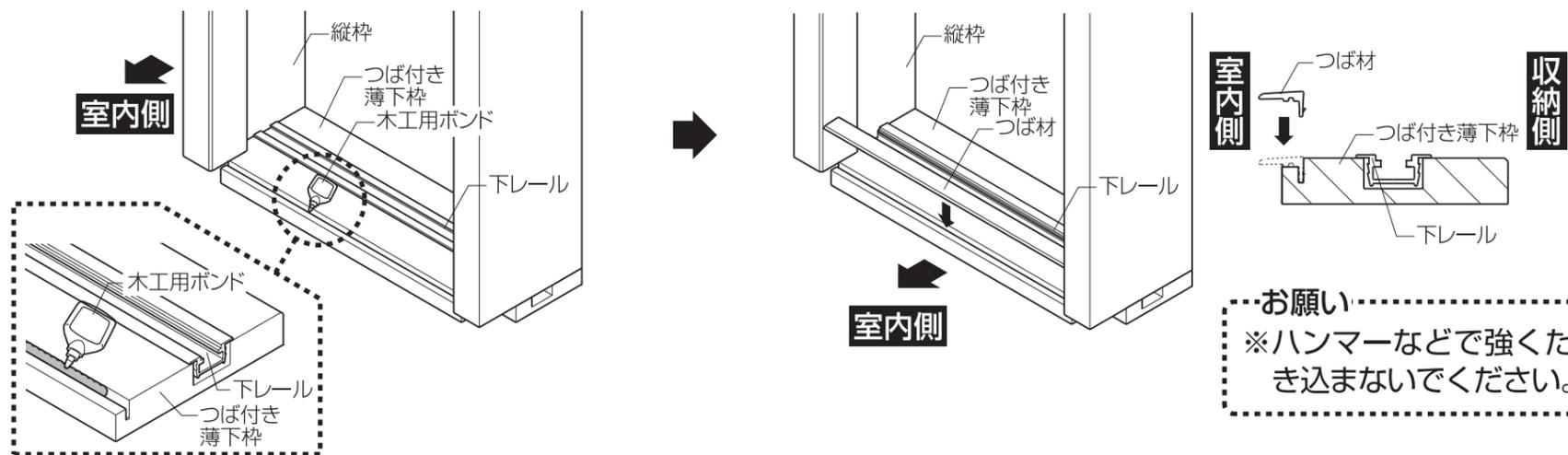
●床材厚さ15mm

- ※必ず薄下枠と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



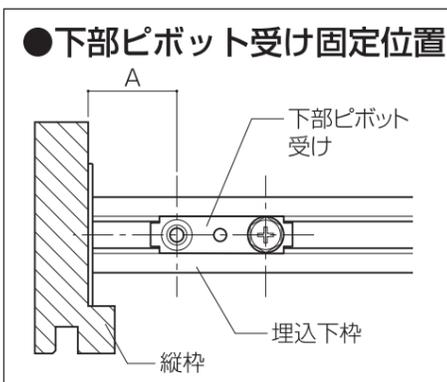
■つば材の取付け(つば付き薄下枠を使用する場合のみ)

- ①現場でつば材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②つば付き薄下枠の溝に木工用ボンド(現場手配)をつけてください。
- ③つば材を溝に手ではめ込んでください。

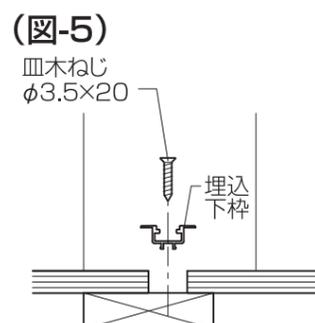
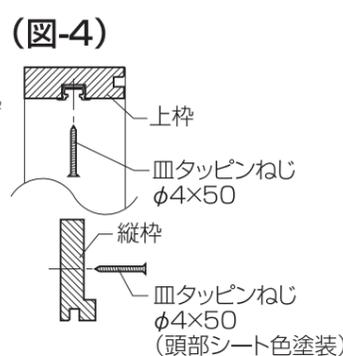
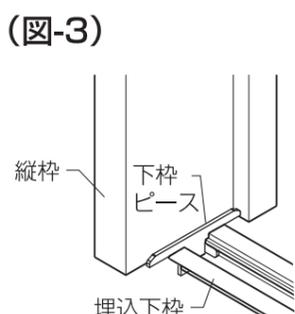
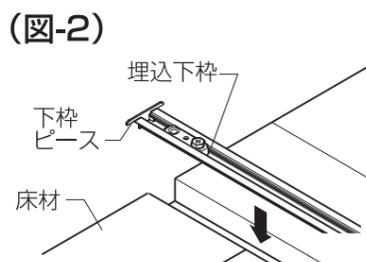
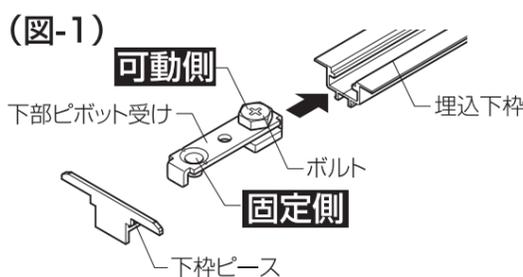


【埋込下枠を使用する場合】

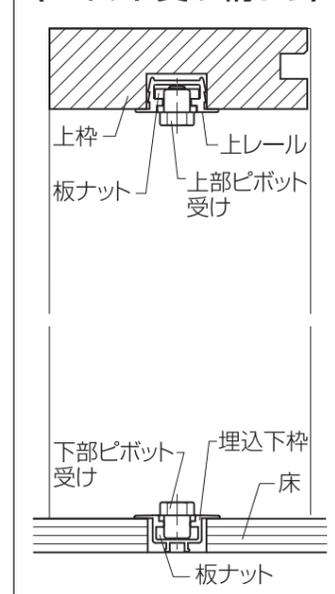
- ①埋込下枠に下部ピボット受けを差込み、下枠ピースを差入れます。
- ※下部ピボット受けのボルトが可動側へ向くようにしてください。(図-1)
- 下部ピボット受けを下図の位置に合わせ、ボルトを+のドライバーで締め、固定してください。(本体の吊込み後、ボルトは再度ゆるめ、建付け調整を行います。)



	A寸法
W12、13M、16、18M	32
上記以外の場合	31.5

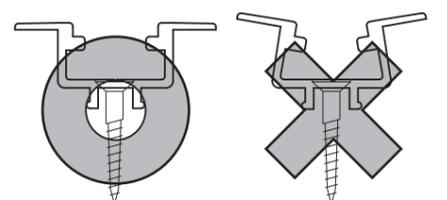


〈ピボット受け納まり〉



- ②下枠ピースと下部ピボット受けを取付けた状態で床に埋込みます。(図-2)
- ③(図-3)のように縦枠の段差部に下枠ピースをあて位置決めをし、上枠・縦枠を開口部に固定します。(図-4)
- ④埋込下枠をねじ(皿木ねじφ3.5×20)で固定します。(図-5)

- 埋込下枠取付け上のお願い●
- ※埋込下枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。埋込下枠を変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



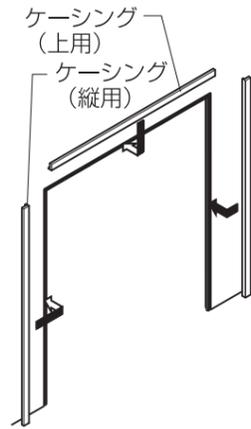
■ケーシングの取付け

【ケーシングタイプのみ】

※壁材・床材を仕上げしてからケーシングを取付けてください。

- ①別梱のケーシングを現場寸法に合わせて切断します。(上用ケーシングは枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)
- ②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシングを固定します。

※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



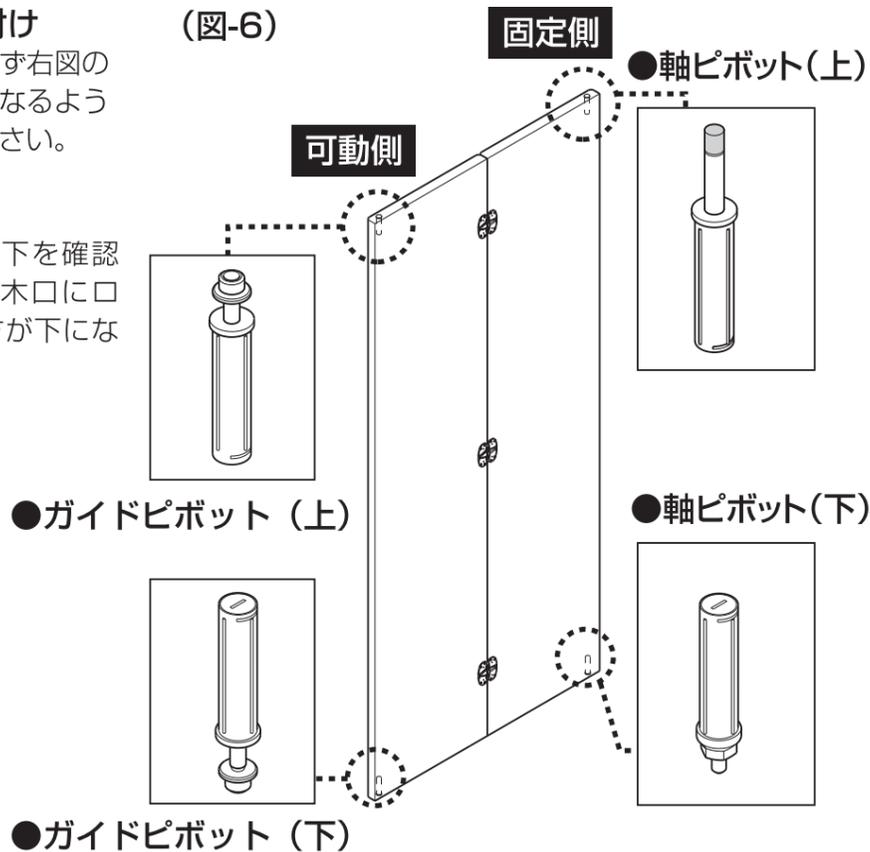
■本体の吊込み

■ピボットの取付け

(図-6)

注 1)ピボットは、必ず右図のような組合せになるように取付けてください。(図-6)

注 2)必ず本体の上下を確認してください。木口にロット印がある方が下になります。



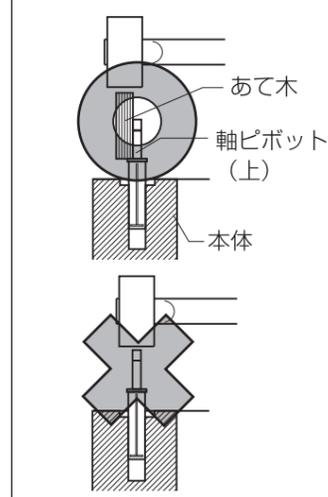
①軸ピボット(上)を本体の取付け穴に差込みます。

※取付ける際は、下図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。軸をたたくとつぶれてしまいますので軸はたたかないでください。(図-7)

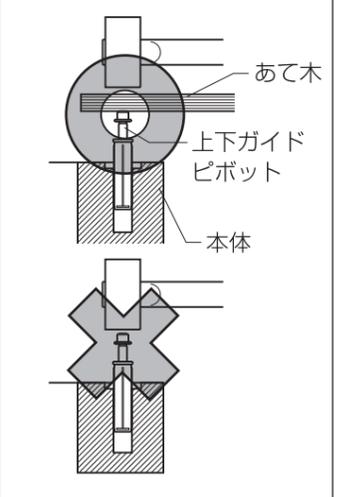
②ガイドピボット(上・下)および軸ピボット(下)を本体の取付け穴に差込みます。

※取付ける際は、下図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。(図-8)

(図-7)



(図-8)



③本体を吊込みます。(図-9)

1.図-10のように本体をたたんだ状態でガイドピボット(下)を下枠の溝に差込みます。(図-11)

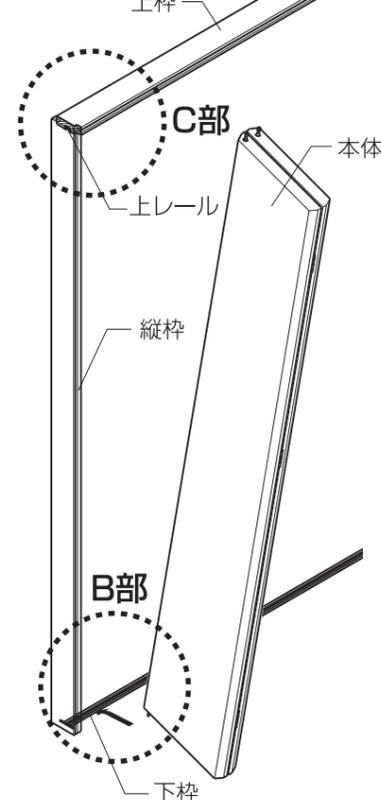
2. 下枠の下部ピボット受けに軸ピボット(下)を差込みます。(B部詳細図)

3. 軸ピボット(上)とガイドピボット(上)が上レールの溝に入るように本体を立てます。

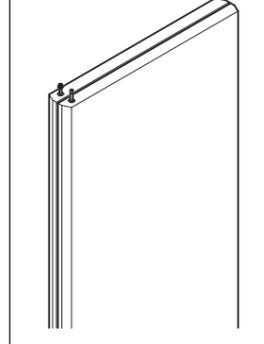
4. 軸ピボット(上)がスベリ台付ピボット受けにはまる(「カチッ」と音がする)まで本体を立てます。(図-12)

5. もう片方の本体も同じ手順で吊込んでください。

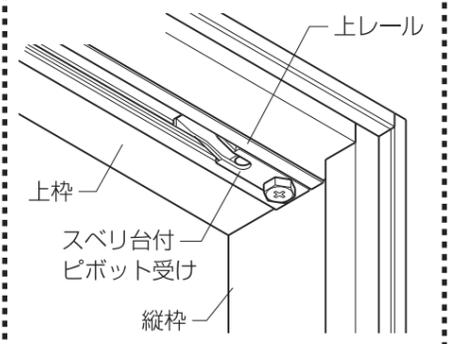
(図-9)



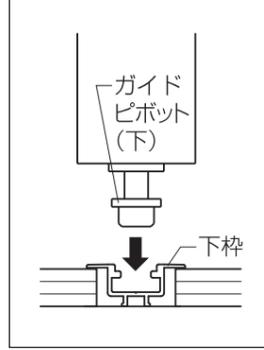
(図-10)



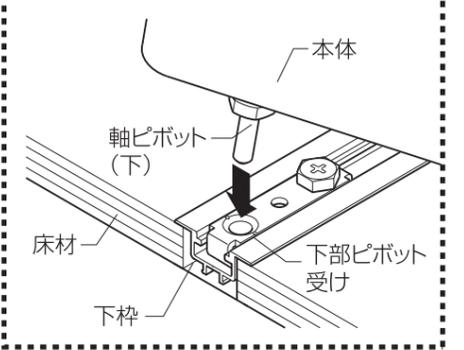
【C部詳細図】



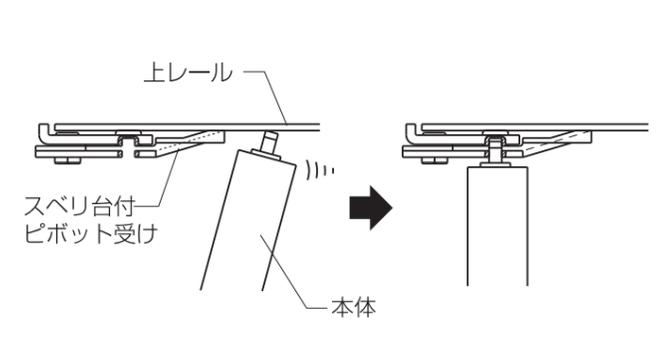
(図-11)



【B部詳細図】



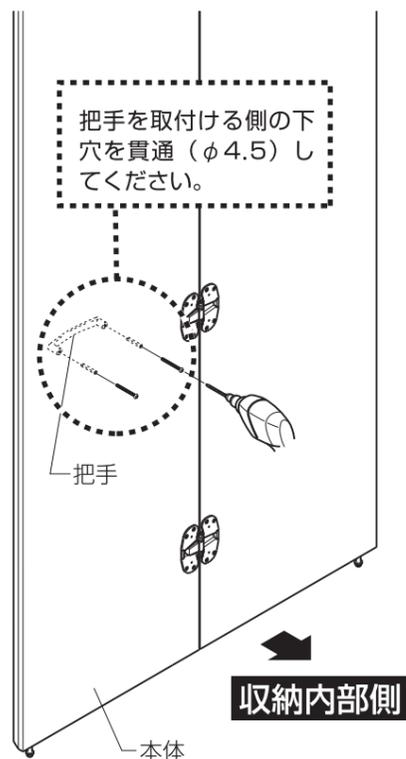
■本体取付け方法 (図-12)



④把手を取付けます。

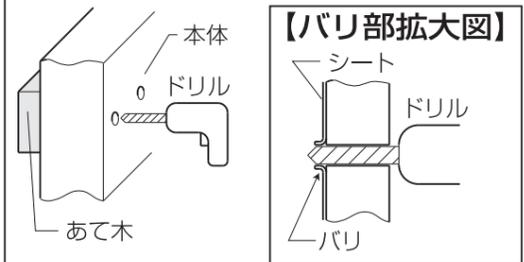
※ 2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。
把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。(図-13)

(図-13)



把手取付け時のお願い

※把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ずあて木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



■建付け調整

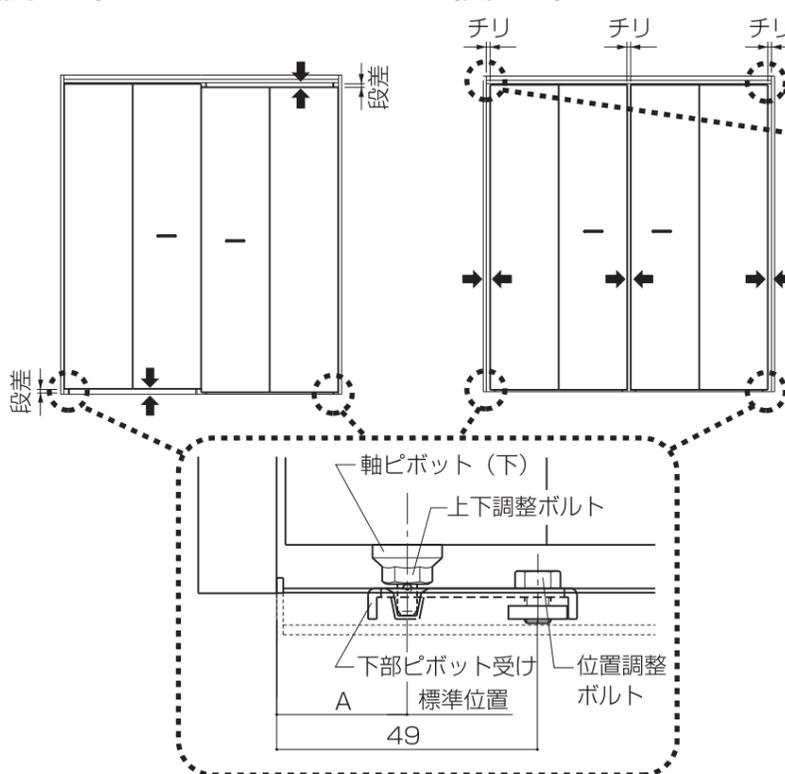
本体の段違いおよび左右のチリを調整します。

〈段違い(上・下)の調整〉

●本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合

※軸ピボット(下)の上・下調整ボルトを回して調整します。
※上下調整量 薄下枠:±2mm 埋込下枠:±3mm(図-14)

(図-14)

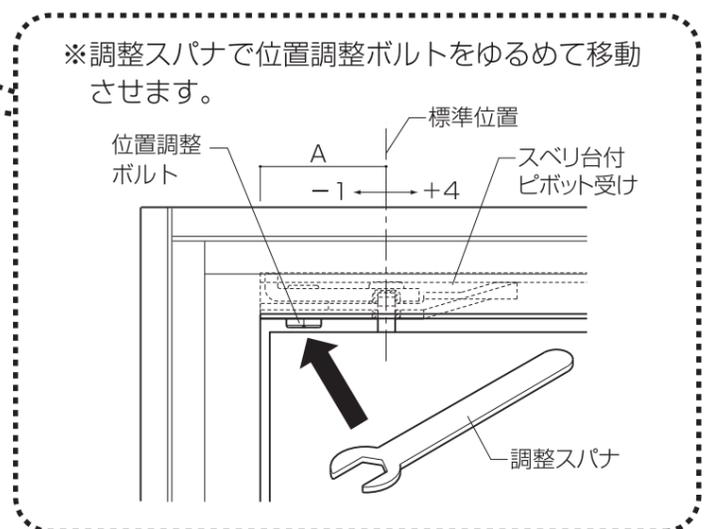


〈チリ(左・右)の調整〉

●図-15のように左右のチリが大きい場合

※上・下のピボット受けの位置調整ボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。(スベリ台付ピボット受けの左右調整量 +4、-1mm)
注)調整完了後、ピボット受けの位置調整ボルトを同梱の調整スパナで本固定してください。(図-15)

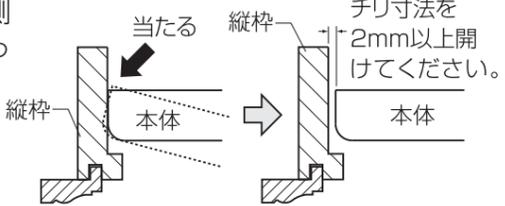
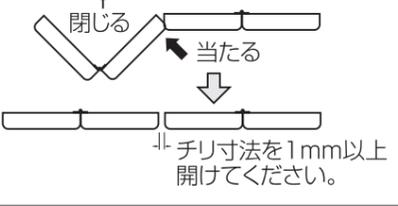
(図-15)



	A寸法
W12、13M、16、18M	32
上記以外の場合	31.5

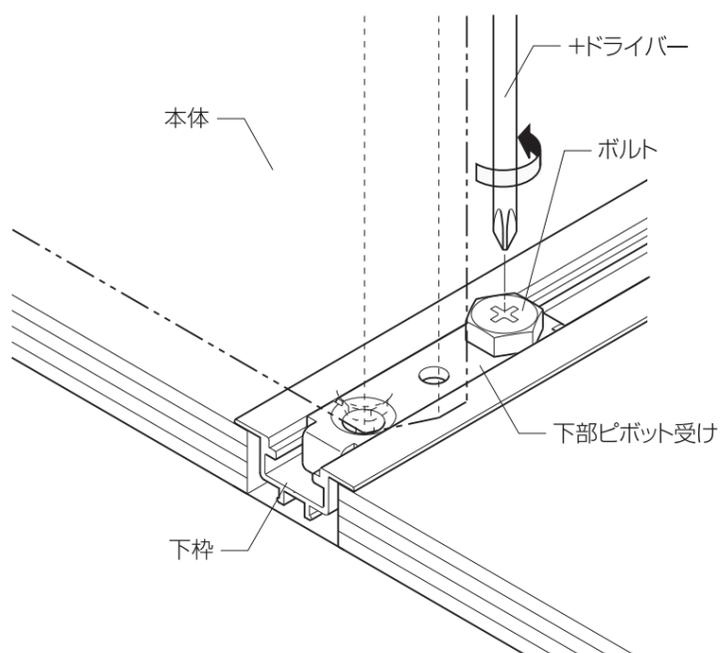
■取付け完了後の確認

取付け完了後、正しく作業が行われたことおよび、使用上の不具合がないことを確認してください。該当する項目がありましたら対処してください。

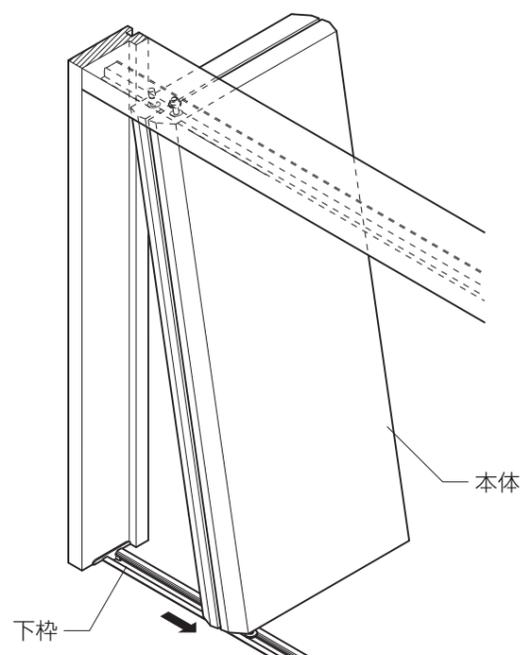
確認項目	考えられる原因	対処方法
本体の上下軸ピボットの軸がピボット受けに納まっているか？	本体の吊込みが正しく行われていない。	本体を外し(7ページ参照)、本体を吊込み(5ページ参照)直してください。
本体の吊元側が縦枠に当たっていないか？ 	上・下のピボット受けの位置が正しくない。	建付け調整(チリ(左・右)の調整)(6ページ参照)を行ってください。
	枠の水平・垂直が出ていない。	枠を外し、開口部の水平・垂直を確認(2ページ参照)後、枠が水平・垂直になるように取付け(4ページ参照)直してください。
本体の戸先側同士が当たっていないか？ 	上・下のピボット受けの位置が正しくない。	建付け調整(チリ(左・右)の調整)(6ページ参照)を行ってください。
ピボット受けの位置調整ボルトがしっかり締まっているか？	建付け調整(チリ(左・右)の調整)後の締め忘れ。	調整スパナでピボット受けの位置調整ボルトをしっかり締め(6ページ参照)てください。
	下部ピボット受け差込み時の締め忘れ。	調整スパナでピボット受けの位置調整ボルトをしっかり締め(6ページ参照)てください。
本体を斜めに取付けていないか？ 	上・下のピボット受けの位置が正しくない。	建付け調整(チリ(左・右)の調整)(6ページ参照)を行ってください。
	枠の水平・垂直が出ていない。	枠を外し、開口部の水平・垂直を確認(2ページ参照)後、枠が水平・垂直になるように取付け(4ページ参照)直してください。
開閉がスムーズに行えるか？ 開閉が重くないか？ 開閉時に異常な音が発生していないか？	上・下のピボット受けの位置が正しくない。	建付け調整(チリ(左・右)の調整)(6ページ参照)を行ってください。
	枠の水平・垂直が出ていない。	枠を外し、開口部の水平・垂直を確認(2ページ参照)後、枠が水平・垂直になるように取付け(4ページ参照)直してください。
	埋込下枠取付けねじの締めすぎ。	埋込下枠取付けねじをゆるめ(4ページ参照)てください。
枠と本体とのねじれはないか？	枠の水平・垂直が出ていない。	枠を外し、開口部の水平・垂直を確認(2ページ参照)後、枠が水平・垂直になるように取付け(4ページ参照)直してください。

■本体の外し方

①下部ピボット受けのボルトをゆるめます。

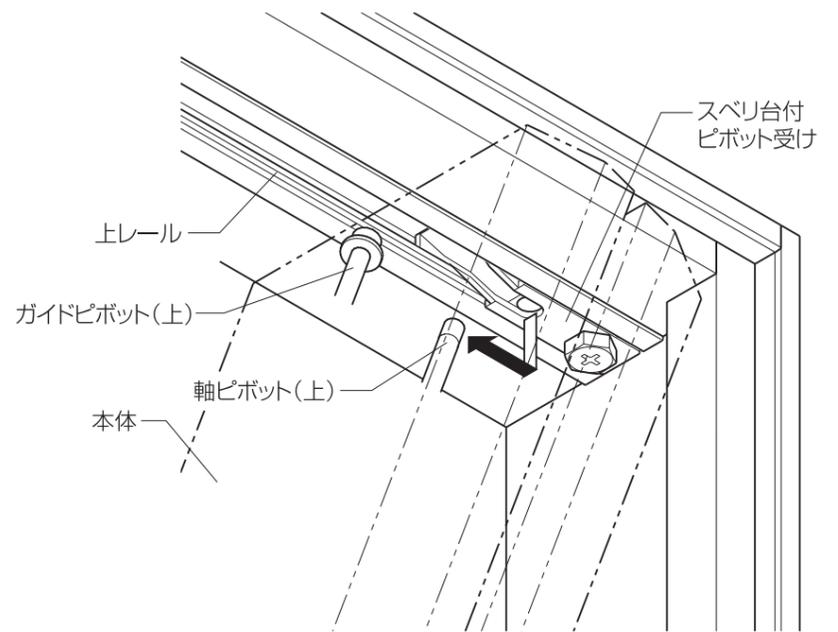
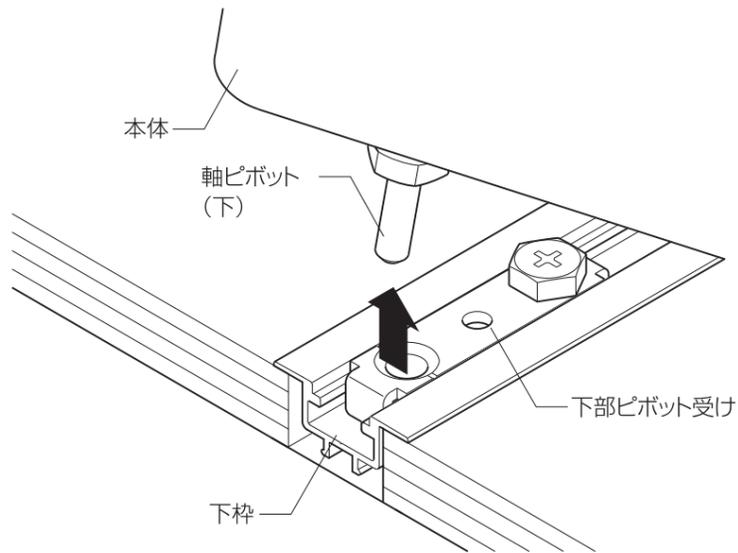


②本体を2枚そろえて、本体の下方をゆっくりとズラして傾けます。



③本体を持ち上げ、軸ピボット(下)を下部ピボット受けから外します。

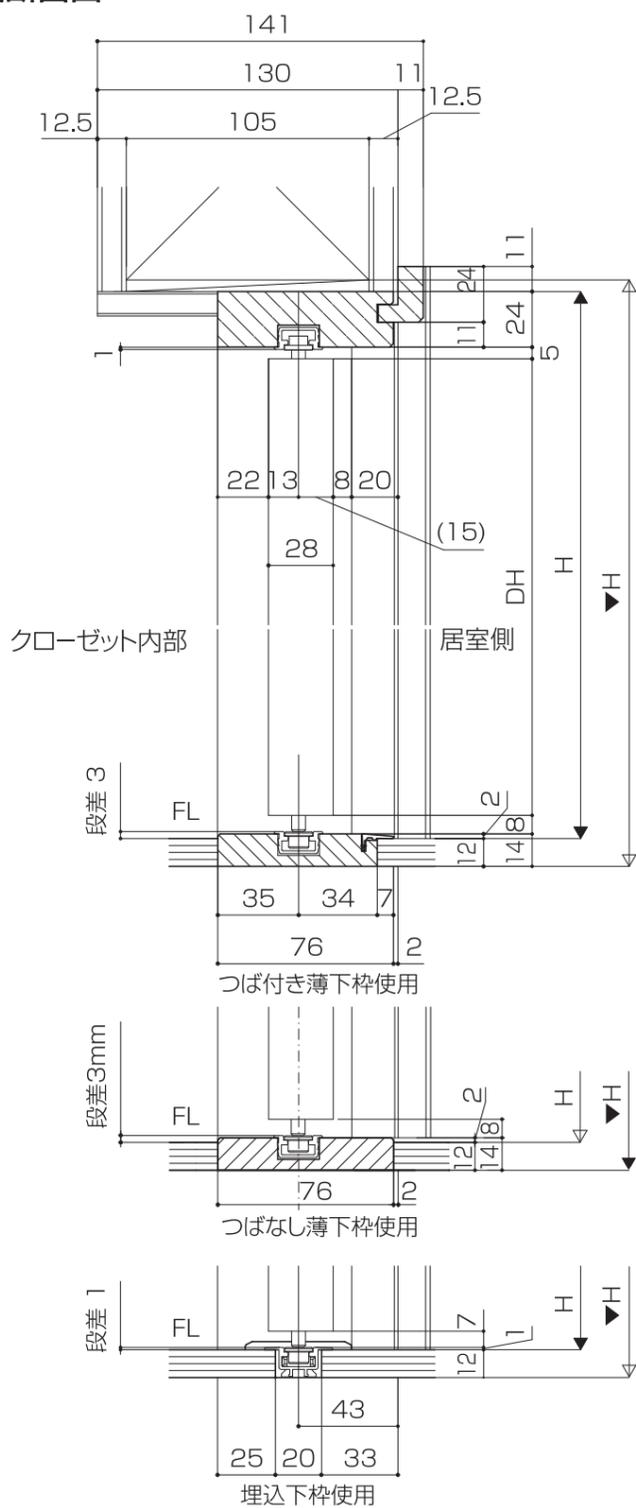
④さらに本体を傾け、ピボット(上)を上レール溝から外します。



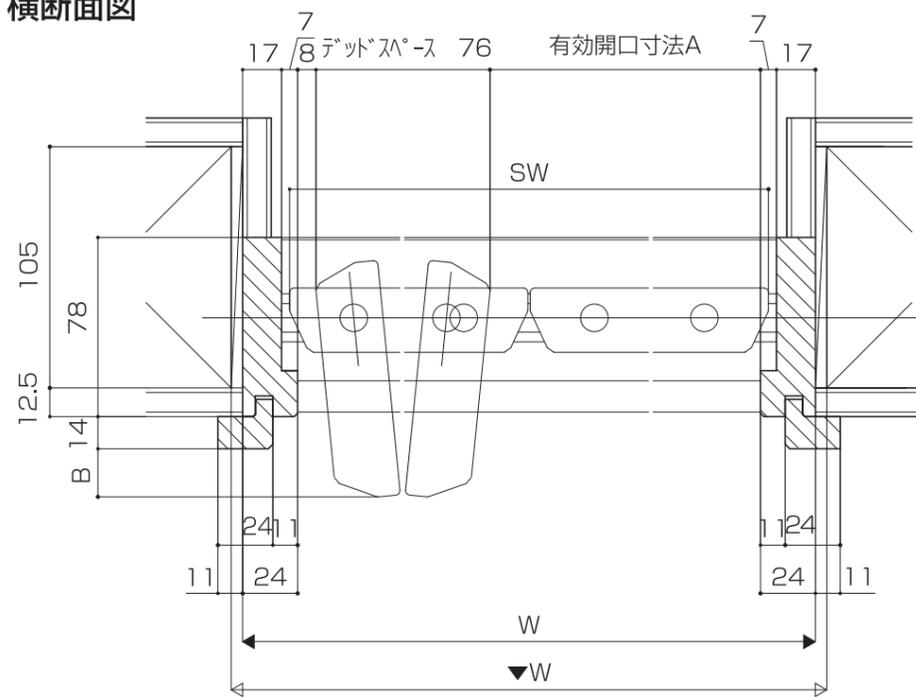
■納まり図

■クローゼットドア折れ戸 ピボットタイプ ケーシング付

縦断面図



横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W07(734)	602	261
W08M(824)	692	306
W12(1183)	967	199.5
W13M(1323)	1107	234.5
W16(1643)	1427	314.5
W18M(1823)	1607	359.5

基本寸法 (mm)	W呼称	07	08M	12	13M	16	18M
	W	734	824	1183	1323	1643	1823
	H呼称	20	23				
H	2023	2306					